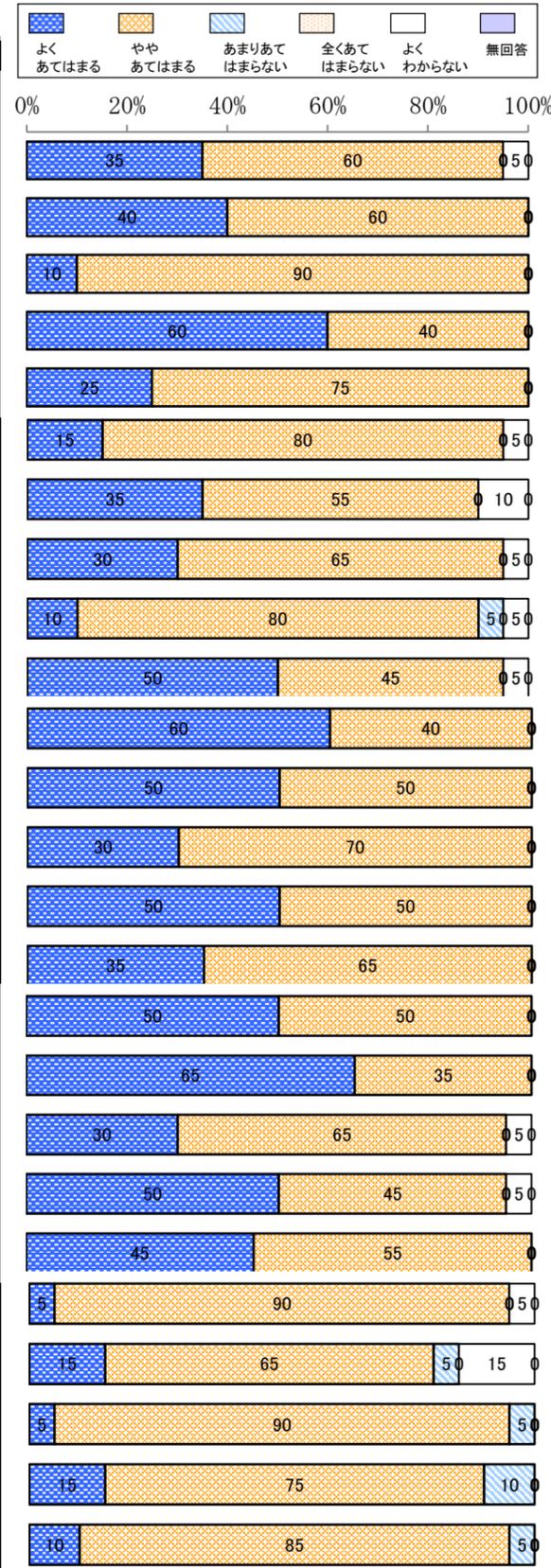


令和3年度 『学校評価アンケートの結果』 と 『自己評価』

荒川区立第二瑞光小学校小学校

		アンケートの結果		上段：児童 下段：保護者等		グラフ：教職員			
		A	B	C	D	よく分からない	無答		
学校全体の様子	1	教育目標・方針	児童・生徒や保護者等と共有できるように学校の教育目標を示し、方針を説明している。	48	38	10	1	4	0
	2	児童・生徒の様子	児童・生徒は、明るく素直で、生き生きとした楽しい学校生活を送っている。	65	30	2	2	1	0
	3	基本的な生活習慣	児童・生徒の服装や通学態度、挨拶など基本的な生活習慣がしっかりしている。	48	42	8	1	1	0
	4	児童・生徒理解	児童・生徒の良さや努力しているところを見つけ、励まし、理解しながら一人一人の能力を伸ばすように努めている。	32	48	13	2	4	0
	5	健康・安全・安心	児童・生徒の健康や安全（確保・対策）に配慮するとともに、主体的に行動できる防災教育を充実している。	61	30	6	1	2	0
学力向上の取組	6	分かる授業	楽しく分かりやすい授業が実践されている。	51	41	6	1	2	0
	7	個に応じた指導	習熟度別学習等、児童・生徒一人一人の理解の程度に応じた学習指導が行われている。	52	40	6	1	2	0
	8	学習習慣	放課後の補充指導等を行うとともに、家庭での学習課題を提示する等、学習習慣の定着を図る工夫をしている。	64	24	10	2	0	0
	9	情報教育	タブレットPCなど、ICT機器を活用した教育を推進しながら、情報活用能力の育成に向けて取り組んでいる。	46	42	12	0	0	0
	10	学校図書館の活用	読書と学習に役立つ学校図書館として活用されている。	42	39	15	2	1	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	自他を大切にし、偏見や差別を許さない豊かな人権感覚を育てる教育を行っている。	63	29	5	1	2	0
	12	道徳教育	生命を大切にする気持ちや他人を思いやる心、善悪の判断や規範意識を育てる等、道徳性をはぐくむ教育を行っている。	40	41	11	4	4	0
	13	教育相談	教育相談を充実し、いじめや不登校を防止する等児童・生徒一人一人の居場所がある学校づくりに努めている。	38	37	16	5	4	0
	14	人間関係づくり	学校行事等の教育活動を工夫し、体験活動を充実させながら望ましい人間関係が築けるよう取り組んでいる。	69	26	3	0	2	0
	15	自主的な活動	学級活動や児童会・生徒会活動等で、児童・生徒が自発的・自主的に活動できるように工夫しながら指導している。	51	39	8	1	2	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	学校便りや学年便り、学校ホームページ等で、保護者や地域の方に、学校の教育活動の様子を分かりやすく知らせている。	45	26	12	3	15	0
	17	相談への対応	児童・生徒や保護者からの連絡や相談を丁寧に受け止め、適切な対応をしている。	46	41	10	2	1	0
	18	学校への参加	学校公開週間や土曜授業日、学校行事等では、保護者や地域の方が参加しやすいように工夫している。	44	32	16	5	3	0
	19	地域との連携	地域の行事などに協力的で、連携を図っている。	34	35	22	5	4	0
	20	意見の反映	保護者や地域から寄せられた意見や要望を受け止め、学校運営と教育活動の改善に努めている。	44	35	6	2	13	0
各学校の特色ある教育	21	主体的に学ぶ態度	児童は、どのように学習を進めていくかなど、見通しをもって学習している。	38	44	11	3	4	0
	22	調べ学習の充実	児童は、調べ学習を進んで行き、自分の考えを発表する活動をしている。	32	39	20	3	5	0
	23	聞く態度	児童は、人の話を最後までよく聞いている。	55	37	6	1	1	0
	24	誰とでも協力できる心情	児童は、友達の良いところを褒めて行動をしている。	40	46	9	2	3	0
	25	前向きに生活する態度	児童は、失敗をおそれず、いろいろなことに挑戦している。	42	32	19	1	6	0

無効票を除く(%)



無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）	
全体の保護者会も行えず、学校経営について詳しい説明は保護者にしづらい状況であるが、児童・保護者ともに昨年度とほぼ変わらない結果であった。教育目標は浸透しているといえる。	
昨年度より児童のポイントは6ポイント上回り95%だった。コロナ禍の中でも児童は楽しく学校生活が送れていることが分かる	
挨拶・返事は保護者で5ポイント増え、教職員では、よくあてはまるが昨年度はなかったが、今年度は10ポイントみられた。児童の挨拶は身に付きだしているといえる。	
ほめられているか、励まされているかという質問に、昨年度同様80%の児童が肯定的に回答している。より高い結果になるように声掛けを続けていく。	
児童には「楽しく過ごせるか」、保護者には「安心して登校させているか」という質問に対して、いずれも90%以上肯定的な回答だった。安全教育について成果が表れていることが分かる。	
児童・保護者共に、ABの評価は同等である。しかし、教員のA評価が10%減少している。これは、今年度の校内研究（算数科）を通し、教職員がより楽しく分かりやすい授業をしていきたいという意識の高まりであると考えられる。校内研究で学んだことを普段の授業で取り入れ、引き続き教師の授業力の向上を図っていく。	
昨年度に比べ、保護者のAB評価が10パーセント下がっている。たけのこ教室との連携、3年生以上の算数習熟度別学習や週1回の学年寺子屋の実施など、今後も児童一人一人の理解の程度に応じた学習指導の充実を図っていく。	
昨年度に比べ、ABの評価が児童で8%、保護者で5%下がっている。学級閉鎖やオンライン授業など登校を控える場面では、児童が自ら課題を考えたり選んだりして学習に取り組むことも大切になってくるため、引き続き、家庭学習の定着を図ってきたい。	
ABの評価が児童は4%、保護者が10%減少した。引き続き、全学年でプログラミングの思考を取り入れた授業やオンラインに対応した授業の実施を進めていく。	
ABの評価が児童は7%、保護者が11%減少した。二瑞小では、各学年で図書館を活用した授業の年間計画を作成し、積極的に活用を図っている。今年度は、図工・音楽でも図書を活用して授業を行った。学校司書と司書教諭による研修も行い、より一層学校図書館を活用できるよう工夫をしていきたい。	
AB合わせて92%と高く、昨年度と同様、ほとんどの児童が自他を大切にすると答えている。今後も全教育活動で人を差別しない、相手の立場や気持ちを考える心の教育を心掛け、指導していく。保護者にも学校便り等で発信していく。	
AB合わせて、81%だが、Aの児童が昨年度より10%下がった。道徳の学習において、道徳的価値を児童が理解し、学校生活や家庭生活で生かしていけるような指導に力を入れていく。	
相談できる先生がいるかという問いにCDを付けた児童が20%いる。様々な面で不安に思っている児童がいると思うので、積極的に児童の話の聞き、不安を解消できるようにする。SCの活用も積極的に行う。	
ABで95%を超える。今年度は、感染対策を講じて行えた行事が増えたので、児童や保護者の充実感も高まったのではないかな。	
AB合わせて90%であった。コロナ感染防止対策を取りながら、学校全体の活動や学級での活動を工夫して行った。その結果、児童も満足して活動を行うことができているのであろう。高学年の自主性・自発性を育てていけるよう、さらに指導の工夫を行っていく。	
保護者は、昨年度よりAが12%減少し、Bが8%増加した。AB合計では、大きな変化はないが、保護者の「もっと児童の様子が知りたい」という期待を感じる。今年度はHPに児童の作品を紹介するページを作成した。また、スクリーンを活用し、お便りを確実に届ける方法を取り入れた。	
児童のABは昨年度と同等。Cが若干増加している保護者のAB合計が9%減少している。教員に安心して連絡や相談をしやすい雰囲気作りを心がけていく。	
保護者のAが昨年度より18%減少し、Cが9%増加した。コロナの影響で、行事縮小、公開の中止が多かった。その時のできる限りの方法を探ってきたい。	
児童のよくわからないが減少し、BCが増加。保護者はAが減少し、よくわからないが増加した。コロナ禍の中、何を地域行事と捉えたかによって違いがあるよう	
保護者のAが昨年度より18%減少し、よくわからないが13%増加。保護者の要望等が、どう反映されているかを学校だより等で知らせるようにする。	
児童・教職員は、8割以上がAB評価であるが、保護者は昨年より15%下がりが62%となった。昨年度と比べてA評価が児童-18%、保護者-12%、教職員-25%と下がっている。また、保護者のC評価が5%、D評価が10%増加している。見通しをもち学習できるよう計画的に指導を積み重ねる。	
昨年度と比べると保護者のAB評価が20%減少し、C評価が10%、よくわからないが10%増えている。56年生の定着が見られ、AB評価が3~4%増加している。引き続き計画的に指導し、保護者に対しては学校だよりや学年だよりなどで調べ学習の活動の様子について伝えていく。	
昨年度より、児童のAB評価が5%増え92%となった。逆に、保護者のAB評価は9%減少し73%に、CD評価は10%増加して21%となった。児童は半数以上がAと高いが、保護者はAが16%とAのポイントが低い。教職員はAが10%とさらに低く、児童とのずれがある。向上を図る。	
児童・保護者・教職員とも、8~9割がAB評価であるが、昨年度と比べて、児童・保護者のA評価が10%ほど減少している。今後も向上を図るとともに、場面とらえて保護者に伝える工夫を考えたい。	
昨年度よりA評価が、児童・保護者が10%以上、教職員が5%減少している。コロナ禍で、教育活動に制限があるが、工夫して、学習体験の場、挑戦できる場を設定し、指導する。	